



第 223 回友の会 桂川を歩く

～冬を越す草木と冬鳥～



日 時：2024 年 1 月 28 日（日）

場 所 西京極駅から桂川を桂大橋へ

天 候 晴れのち曇り

参加者 一般 27 名（内子供 1 名） スタッフ 19 名
合計 46 名

今年初めての友の会
は、西京極総合運動公園
からスタート。入口の左
右にタイサンボクが 2
本。モクレン科の高木
で、初夏に咲く花は蜜を
出さず、強い香りで虫を引きつける。植物と
しては原始的な部類に入ります。



ジョウビタキ



タイサンボクとユリノキ



ユリノキの実

さあ、歩き出すとすぐにジョウビタキのメスがお出迎え。
冬鳥としてシベリア～中国大陸から飛来してきます。「目が可
愛い！」と評判ですが、本人はそんなつもりないと思うけど。
フィールドにさしかかるところにイスノキが。虫こぶが多い。日
本の木材で最も重く、これで木刀も作る。なるほど。
線路側にカクレミノ見つけ。葉は 3 裂が多いものの 2～5 裂、
裂けない葉もあり、グー、チョキ、パーがそろい踏み。
公園を出て、線路下の狭いトンネルを抜けて土手へ。バショウの
葉の切れ込みが深いのは、強風に対応するため。ビワには葉、



イスノキと虫こぶ



（左）バショウの葉

（中央）オニグルミの葉痕

（右）観察風景



実、種にさまざまな薬効があります。花のにおいは、好みがわかれそう。

耕作地を抜け、いよいよ桂川へ。展望が開け、モズのさえずりが聞こえてきます。カモたちは大陸から渡ってきてるかな。おっ、対岸にコサギ、カワウ、コガモが集まっています。白いサギでこの時期くちばしが黒いのはコサギで決まり。コガモはオスの頭部の、栗色と緑の組み合わせがユニーク。住宅地側にいたツグミも冬鳥。20センチ以上あり、食べがいがあるのでかつては焼鳥屋に並んでいたとか。

左岸を下流へと歩きます。キンクロハジロは、真っ白な腹側と真っ黒な胸・背・腰のツートンが印象的。金色の眼が見えましたか？オカヨシガモは、オスでも褐色～灰黒色の地味なたたずまいながら、お尻の下の黒い三角形がくっと目立ちます。オオバンがいっぱい。頭部にある額板の白が体色の黒によく映える。カンムリカイツブリは、白く長い首と黒い頭部のコントラストにご注目。

桂大橋を右岸へ。河原で昼食をとり、恒例の店開き。ここから下流の右岸は耕作地化が進み、見るべきものがなくなっていました。ということで、今日は、ここまで！

(中川)



ビワの木を観察中



ヒヨドリ



マガモ



ヒドリガモ



カンムリカイツブリ



恒例の店開き



カツラの実



鳥の説明を聞きました



鳥の人気投票も行いました